

【生薬名】 何首烏 *POLYGONI MULTIFLORI RADIX*

夜交藤

【起源植物】 ツルドクダミ *Polygonum multiflorum*



【科名】 タデ科 Polygonaceae

【別名】 蔓毒痛（漢名）

〈何首烏〉[㊦]

【薬用部分】 塊状根

【主成分】 タンニン、アンスラキノン類、澱粉、脂肪油

【薬性】 気味は苦甘渋温、帰経は肝腎に属す

【効能】 ●滋陰、強壯、益精補血

●瀉下作用は穏やか。腸燥便秘、整腸に、1日10~20g

●

●白髪を黒くするとかつてブームになった

●補腎に働くので実際に髪を黒くしたり育毛の効能がある

●消化が良いため、虚すれど補益性を受けない者に適している

●血中コレステロール低下作用や血糖降下作用が確認されている

【何首烏酒】 ●生の根200g、杓仔刈1.8ℓ、1ヶ月以上熟成、強壯に薬用酒、1日20~30ml

【出典】 ●何首烏 甘、添精種子、黒髪悦顔、長生不死。（薬性歌）

【備考】 ●可首烏は補肝に、熟地黄は補腎に力が強い

●可首烏には抗アナフィラキシー作用があるという

【処方例】 ●当帰飲子、可首烏丸

〈夜交藤〉

【薬用部分】 蔓茎

【主成分】 不詳

【薬性】 気味は苦甘平、帰経は心肝に属す

【効能】 ●安神・養血活絡

●神経衰弱・貧血などで不眠・不安・動悸などの血虚では+酸棗仁・柏子仁

●夢を見て驚きやすい者に適している

●皮膚の痒みには地上部の煎液で洗うと効果がある

●動脈硬化等で痺れ、四肢が怠い、疼痛などの血虚が認められる時には+丹参

●9~30g

【出典】 ●何首烏 甘、添精種子、黒髪悦顔、長生不死。（薬性歌）

【処方例】 ●交藤飲